あきる野市
男女共同参画情報誌
f・wave エフ・ウェイブ
2010. 3月　第24号

男女共同参画

養沢川

特集

あきる野農業のパイオニアを訪ねて

座談会 やってんべぇ あきる野農業

「f・wave」とは…fは、family-家族、freedom-自由、future-未来、そしてf-強く、を意味し、waveは、波を表します。
f・waveは、環境の変化の波を紙面を通じて伝え、男女が生き生きと暮らせる未来をめざすコミュニケーション誌です。

23号では、農家数の増加やファーマーズセンターの売り上げ増など、今、注目されている、あきる野農業について取り上げました。今号ではさらに詳しくあきる野農業に携わっている方々をご紹介します。

東京牛乳

（瀬戸岡の田中宏和さん(49)）

乳牛41頭を飼育、家畜の出産も自ら行う。1日に約800kgの牛乳を搾り、出荷。東京牛乳として販売されている。

20年前、酪農ヘルパーのしくみを立ち上げた田中さん。当初「休みがないのは当然。」という風潮の中、酪農に関わりたい若者と酪農家の家族旅行を結びつけました。意外にも女性のヘルパーさんが来てくれたそうです。信頼してすべてを任せることが大切と田中さんは話します。

また、田中さんは子供たちへの教育にも力を入れています。牛の出産時には保育園児たちを呼び、小学生の職場見学も受け入れています。今後は酪農体験教室も行いたいとのこと。牛が好き、この仕事が好きと終始笑顔で話してくれました。

あきる野いちご

（増戸の中村明雄さん(35)）

ビニールハウス300坪でいちごを栽培。年間約1万パックを五日市ファーマーズと日の出ファーマーズに出荷。

兼業農家である父親の手伝いから始めたそうです。他の農家と重ならない農作物をつくりたいと考え、5年前からいちごの専業農家になりました。各地のいちご農家へ出向き、栽培方法を研究しています。ハウスで完熟してから出荷する中村さんのいちごは、香り豊かで酸味が少なく、「甘い。味が違う。」とお客さんに好評です。

「目の届く範囲で物足りないくらいの規模がちょうどいい。」「良く面倒を見れば見るほど、いちごは答えてくれる。」と中村さんは話しています。

秋川牛

（菅生の竹内孝司さん(68)・孝英さん(40)）

孝英さん

黒毛和牛300頭を保有。生後9ヶ月の子牛を購入し、20ヶ月間飼育する。秋川牛として年間約180頭出荷。五日市の松村精肉店にて販売。（とうきゅうでも取り扱う時もあり）

戦後の食生活の変化を見極めながら、農業から乳牛、その後は肉牛飼育へと転換し50年。1頭から始め、規模を拡大していきました。

清潔な牛舎は竹内さんの創意工夫によるもの。牛舎にしかれたおがくずには、竹林から採取した酵母菌を合わせています。牛の糞尿はおがくずと共に発酵させ、さらさらした無臭の完熟堆肥へ加工。袋詰めされ、主に23区内へ売られています（JAあきがわでも販売）。息子の孝英さんは5、6年前に脱サラし、後継者として一緒に働いています。

東京シャモ・鶏卵

（菅生の浅野良仁さん(74)）

浅野さん夫妻

養鶏を始めて50年、シャモを育てて25年。1週間に約500羽のシャモを出荷。日本橋の有名店や雨間「いぐさ」の親子丼で使用される。鶏卵は一般向けに1日4000個を販売し宅配便で送る。自ら考案したシャモカレーも販売。

“自分たちでつくり、自分たちで値段を決める”“ブランド化し、良いものを少しつくる”という都市型養鶏を樹立。組合を結成し、販売に問題を通していません。

良い養鶏の条件として、浅野さんは一番に「場所」をあげます。水はけが良く風通しがよい、カルシウム分の多い水があるなど、3年かけて今の土地を探しあてたそうです。

「ご近所に助けられた。知らない場所へ飛び込んだにもかかわらず、人に恵まれ、ここで養鶏ができた。」と話す浅野さん。油絵、オペラ、モーターパラグライダーなど趣味も楽しんでいる方です。

シクラメン

（増戸の石井司夫さん(71)）

約40年前、農業普及員さんからシクラメンをやってみないかと勧められ、市内で初めてシクラメン栽培を始めました。石井さんのシクラメンは「花保ちが良く、3月ぐらいまで咲き続ける。」と評判。堆肥と有機質を使った土作りや鉢を遮光させるなど、工夫のおかげです。鉢の遮光のため、後継者である息子さん一家は、夏の間、小河沢へ住民票を移すそうです。

「お客さんの喜ぶものを渡したい。」「いいものを売るのは簡単。いかにいいものをつくるかが大変。」と石井さんは話しています。

現在、シクラメン約6千鉢、君子蘭3万鉢、紫陽花6千鉢などを市場へ出荷。

（取材を終えて）

みなさんに共通して言えることは、仕事に対する情熱と工夫、新しいものに挑戦する強い気持ちです。また、ご夫婦・ご家族で協力し作業していること。自然体で共同参画されているように思われました。

座談会 やってんべえ あきる野農業

司会 本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

はじめに今日の座談会の主旨について、石川編集委員より説明をいたします。

石川 日本の農業は女性が支えてきたと言う歴史があります。男と女が共同で力を合わせて、住みよい社会を作るという男女共同参画の視点から見ても、農業はその最も先駆けでありました。今、その農業は様々な問題を抱えていますが「農業を大事にしないと日本の将来はない。」と言う人もいます。また、「何千億のお金を使ってダムを建設するより、水田を整備するほうが国土の保全になる。」と明言する人もいます。今日は、現在農業に携わっている皆さんの本音をお聞きしたいと、この座談会を企画しました

司会 それではまず自己紹介をお願いします。

山本典宏さん

山本 草花の森山地区在住です。5年前就農して一人でやっています。主夫もやっているので一馬力ですので大変なのが実情です。スイートコーンを中心に、20種類くらいの野菜をファーマーズに出荷しています。 このごろ特にハクビシンの被害が多くて困っています。

横田弘文さん

横田 草花の高瀬在住です。16年くらい前に就農して今は父・母・妻と4人でやっています。ファーマーズ主体で市場にも出荷しています。後継者問題でいろいろ言われているが、継がせる方にも問題があると思います。どれだけ真剣に継がせたいと思っているのか。そういう意識は大切だと思います。今、日曜日にソフトボールをやっているとなぜ農業者がと、周りの視線を感じます。

渡辺 草花在住です。私は三人姉妹の長女なので、父が59歳でなくなった後、引き継いでもう45年もやっています。夫は会社勤めなので機械作業だけをやってもらって、市役所南側の日曜即売の時から一人で全部やってきました。農業はなるべく使わないように心がけています。保健所の許可を5種類取って、野菜を加工したものもファーマーズに出しています。75歳を過ぎるとなかなか大変ですが、毎日20kgの重石を、のせたりおろしたりしています。現在は夫に代わって長男が、会社が休みのときに手伝ってくれて助かっています。孫たちに「あとはよろしく。」と言うと「わかった。」と言うんですけど、今の時代はそれぞれやりたいこともあるし、どうなるやらわかりませんが心配です。

渡辺絹さん

平野 雨間在住です。私は大それた考えで農業をしているわけでなく、

平野美代子さん

たまたまそこに畑があって、子育てをしたあと気が付いたら畑にいました。土・日に夫に畑を耕ってもらい、マルチを張いといてもらって種をまくことは私でもできるんで、そんなやり方で家で食べるくらいの野菜を作っていました。そして夫が定年を迎えたとき、畑をやるか、そのまま帰くか散々考えた結果、畑を選び、社会的つながりを期待してファーマーズに入れてもらいました。今年で7年目ですが、自分たちの作ったものが売れると言う、喜びと張り合いを夫婦で感じでいます。「ねぎ、甘くておいしかったよ。」なんて電話をもらうと、なんでうれしいんでしょう!考えてみると土に癒されてきました。野菜の花って本当にきれいなんです。何か用があると畑はお休みにして、楽しみながらやっています。

司会 消費者に望むことは何かありますか。

横田 品評会で良しとされる規格を目指して一生懸命作っていますが、B級品のほうが少し安いと、お客さんはそちらを買っていく傾向があります。消費者も安けりゃいいと言うんじゃなくて、良い品物を選択して欲しいです。B級品でよいんだと言うことになると、ファーマーズ全体の品質が落ちると言う可能性も出てくると思います。

平野 私は楽しみながらやっているけど、売るからにはいい物を作ろうと思っています。商品を出すとき「私だったら買うかな?」と考えて出しています。

斎藤 消費者も形だけでなく、味の良い野菜を求めています。

平野 味がいいのは土によってだと思います。いいものを作るにはいい土をつくらなきゃあ。それが難しいんです。日々努力、日々研究です。

横田 土が黒くて石のないところに良い物ができますね。

山本 やっぱり小さい時、保育園・幼稚園の時から農業の体験をして、身に覚えさせると野菜の味、いいものはいいとわかるようになるのです。

横田 野菜も豊作の時に安いし、栄養もあるので、旬のものを大量に食べて欲しいです。

大本 我々も自分で食べるものは、自分で責任を持つことが大事ですね。

これからの農業で働き方の希望とかありますか。

山本 昔は雨が降ったら休んだけど、これからは農業も家族協定が必要だと思います。夫婦でも協定を結んで、休みを設定すべきです。

代田 ワークライフバランスですね。農業もきちんと休みをとる。自分の時間を持つ。社会全体の風潮を打ち破ることが大切ですね。そうしたら子供たちもそれを見てやりやすくなる。

山本 僕も仕事をやめるとき「おめえ、世間体と言うものがあるからよ。」っていわれたが、人がどう言おうと誰が主夫やったっていいんじゃないのと思いました。

石川 まさしく改革者ですね。津軽のりんご農家の木村秋則さんもそうでした。無農薬でのりんごの栽培を始めて、周り中から変人扱いされて、8年目にやっと実がなり、今では一つ300円のりんごがあっという間に売れてしまうそうです。

山本 これからは変わり者が世の中を変えていくのです。

山崎 サラリーマンは会社が倒産したらそれで終わりですが、農業はそうではない。底力がありますよね。

横田 昔は3Kとか言われてきましたが、実際は農家で自殺したと言うのは、聞きませんね。

斎藤 今、若い人の間で就農する人が少しずつ増えていますが、ファーマーズができて変わりましたか。

全員 大いに変わりました。

横田 若い人とUターンの人が増えました。これから先、秋川、五日市、日の出のファーマーズ間で足りないもののスムーズな流通ができればいいと思います。

山本 秋川と五日市のファーマーズの中間地点に道の駅みたいなものができて、自由に販売できればいいですね。ファーマーズも10年先は会員が半分くらいになってしまうかもしれないので、今から手を打っておかないと困ったことになるのでは。

斎藤 将来学校給食が全部あきる野産で賄えるといいですね。

平野 地産地消と言われて10年になるが、学校給食で大量に消費をできればすごくいいですね。秋留台地はいい食材の宝庫です。

代田 世の中野菜の消費量が減っているから、せめて学校給食で子供たちにたくさん野菜を取って欲しいですね。豊かな食生活は心も体も豊かな子供たちをはぐくむんですね。

横田 今はボランティアの人たちが登下校の子供たちを見ていますが、昔はそこいらじゅうに畑があって農家の方たちがいて、子供も悪いことをすれば怒られたりした。そういう環境がありました。今の子供たちは、畑はよその人のものという感覚がないので、きれいに種をまいた畑を平気で横切るんです。

平野 大人もそうです。きれいに耕した畑に犬を走りまわらせるんです。言語道断です。

横田 これから農業を続けていく上で難しい点もあります。風が吹いて土ぼこりがするとか、堆肥がくさいとか、苦情を言う人がいます。我々も気をつけながらやっているのですが。周りの方々の理解も必要になってきます。

司会 そろそろ定刻ですが、何かこれだけはと言うことがありましたらどうぞ。

斎藤 なるべくいいものを作るよう努力します。

平野 これからも夫婦で楽しんでやっていきます。

横田 固定資産税を軽減してください。

山本 市街化区域で税金分は稼ぎ出せません。災害時の場所提供などを考えるとスペースは確保する必要があります。税金のために手放す人が多くなると、農地はなくなっていきます。

山崎 あきる野農業の存続のためには、とても大切なことですね。

石川 最後に農村医療に生涯をかけた若月俊一の言葉を紹介します。「農業と土は母です。科学が進歩して試験管内で受精卵ができても、子宮の中で10か月育てなければ子供はできない。そういう意味で農業と母はすべてを創造する一番の基本です。やっぱり山と水と緑を守らなきゃ国全体がだめになってしまう。」

司会 本日はお忙しい中ありがとうございました。

参考図書

斉藤のリンゴ
「絶対不可能」を覆した農家　木村秋則の記録　幻冬舎

若月俊一の遺言
農村医療の原点　家の光協会

Mottainai もったいない 食品ロス！

食べ残し
過剰除去（皮のむきすぎなど）
直接廃棄（期限切れなど）
200～400万トン

一般家庭
1100万トン

食品関連事業者
800万トン

規格外品、返品
売れ残り、食べ残し
300～500万トン

食品廃棄物の合計
1900万トン

食品由来の廃棄物（年間・日本における総量）

食品廃棄物のうち、食べられるのにもかかわらず捨てられているものを食品ロスと呼び、年間約500～900万トン、日本の食品の5～10%と言われています。飲食店のお客が食べ残した料理や仕込みすぎの食材など、また一般家庭では、皮を厚くむきすぎたもの、作りすぎて食べ残された料理、冷蔵庫等に入れたまま期限切れになった食品などがこれにあたります。

まだ食べられる 食品ロス
500～900万トン

平成20年食品ロスの現状について（農水省ホームページ）より

Report

第14回 女と男のライフフォーラムinあきる野

あなたの資産価値を高めるには？

～ 笑っている父親が社会を変える ～

平成22年2月11日（木・祝）あきる野ルピアのルピアホールでライフフォーラムが開催されました。

第1部はNPO法人ファザーリングジャパン代表の安藤哲也さんによる基調講演でした。安藤さんはご自身の子育てを通じ、父親の子育て支援・自立支援の必要性を感じ、ファザーリングジャパンを立ち上げ様々な活動を行われています。

講演では、パパ・ママの子育ての悩みやその解決方法をお話しいただき、パパ検定簡易版では「子供の乳歯は何本？」、「アニメのサザエさんのマスオさんが勤務している会社名は？」などの質問が出題され、皆さん頭を悩ませていました。

ティータイムをはさんでの第2部では、女性・男性それぞれが小グループに分かれての本音トークを行い、グループごとに本音での話し合いが活発に行われ、日ごろのストレス発散の場になったのではないでしょうか。

編集後記

男と女が一緒に働く原点、農業。賢い消費者となって、あきる野農業を応援していきたいです。ファーマーズセンターを盛り上げていきましょう。

一緒に情報紙を作ってみませんか
編集委員募集します。
詳しくは広報あきる野4月1日号で。

表紙写真
大谷　勝

情報誌編集委員
石川光代・大木澄子・
齋藤映子・代田富貴子・山崎經子

エフ・ウェイブ　第24号　2010年 3月発行

発行／あきる野市市民部市民課　〒197-0814　あきる野市二宮350番地
TEL 042-558-1111　FAX 042-558-1116
企画・編集／あきる野市男女共同参画情報誌編集委員会

再生紙を使用しています